
朝陽

ロースト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝陽

【ZPDF】

Z3997M

【作者名】

ロースト

【あらすじ】

死に行く者と生きながら死ぬ者。

二人の運命の交差が終わる。朝陽が告げる“次の日”は優しく温かく、しかし残酷で僕らには眩しい。

朝陽

暗闇で生きてきた僕らには眩しすぎる陽が朝を告げる。
それが何もかもに諦めを促し、
誘いに導かれるようにすでに動かない身を、意思までも託し、委ねる。

力を持たせるよう、温かみを取り戻すよう、握り締めた指。
冷たく、動かそうとする意志さえも感じ取れないほどに固まっている。

諦め、仕方ないんだというように笑顔を見せる君。

僕は絶望に暮れ、何も言えず、
それでも信じたくなくて、抗うように凍つた指先をさらりと握る。
景色は涙で滲み、現実感が薄れている。

「生きる」ということは、いつかは「死ぬ」けれど、
終わらないものなどなくて、不变も永遠もまやかし。
必ず、どこか目に見えなくても絶えず変わつてゆき、変動も変化も
真実。
わかつてゐる。

だから、せめて、

君に声かける時間を、君を抱きしめる時間を、
ほんの少しだけでいい。

別れるための時間を下さい。

あたしはもういかなければならぬの。
時が止まるはずはないから。

「生きたい」そんな些細な願いさえも、
風に吹かれ、誰の耳にも届くことなく、消えていく。
血が張り付いた喉はひりひりし、願望という餓えが残る。

この先、未来には何が待つてゐるのだろう。
どんな結果だろうと、受け入れなければならぬ。

一人の運命は平行線
決して一つになることはない。

あたしの道はすでに閉ざされ、硬く、暗く、先はない。
けれど生者の君には明るく、いくつもの先が用意されているから。

振り返つては駄目。
立ち止まつては駄目。

君は強いから。

立ちぬくす。

君といた街は歪み、^{ゆが}
^{ひず}歪み、

君がいた記憶は僕の胸の中で溢れ出し、
深く、深く、

悲しみの泉が出来上がつてゐる。

僕はそこに溺れ、浸り、絡められ、

未だ立ち上がることすら出来ないんだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3997m/>

朝陽

2010年10月9日04時40分発行